



N. M 英語英文学科 2 年次

参加期間：2019 年 2 月 15 日 ～ 3 月 17 日（4週間）

受 入 校：St. Patrick's College Ballarat（Ballarat）

I. 教育実習について

実習をさせていただいた St. Patrick's College は、私立の男子校で、カトリック系の学校でした。Year 7 から Year 12 の学年の授業に、満遍なく参加しました。授業は Session 2 から Session 9 まであり（Session 1 は朝礼）、多い時は 8 コマ全て参加することもありました。生徒たちは明るく活気があり、授業中も賑やかなため、特に Year 7、8 の授業では先生が話している間生徒を静かにさせるのは大変そうでした。とはいえ皆親切で、廊下で見かけたときは欠かさず挨拶してくれましたし、教室がどこかわからず迷った時は生徒から声をかけてくれて、道を教えてくれました。



Year 9 と 10 の授業で、浴衣を着て茶道のデモンストレーションをしました。思っていたより好評で、お菓子もお抹茶も美味しいと言ってもらえて嬉しかったです。また Year 12 はスピーキングの試験を控えていたため、希望する生徒には空きコマの時間を使い、インタビュー形式で個人レッスンをしました。最初は緊張していた生徒も、レッスン最終回には日本語で伝えようと頑張っているのが伝わってきました。空き時間には、リスニング用の音源を録音したり、Year 7 のクイズの丸つけをしたりしました。

最終週には東京からの修学旅行生が来ていたので、日本語の授業時間を使って交流していて、私もお手伝いしました。Year 7 の生徒と一緒に折り紙で鶴を折ったり、Year 8 の生徒とグループでゲームしたり、Year 9 では一緒に日本語のリスニングに取り組んだりしました。



日本語の授業以外にも他教科の授業を見に行ったり、カトリック系の学校ならではの学校行事に参加したりしました。幅広い年齢の生徒たちや多くの先生方と関わることができ、充実した実習となりました。

II. ホストファミリーについて

ホストファーザーとホストマザー両方とも実習先で先生として働いている方だったので、毎日車で一緒に行き帰りしました。週末はいつも行きたいところへ連れて行ってもらいました。特に、3連休のお休みにはメルボルンのホテルで宿泊し、メルボルン水族館に行ったりヴィクトリアマーケットで買い物したりしました。ホストマザーが妊婦さんということもあり、食事にはかなり気を遣っているようでした。とてもフレンドリーで温かく受け入れてくださり、毎日美味しい料理をいただき、楽しい生活を送ることができました。



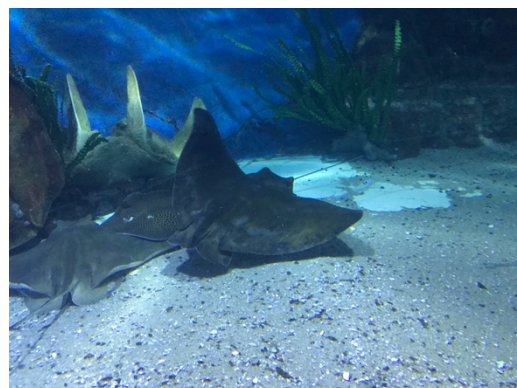
Ⅲ. 参加希望者へのアドバイス

オーストラリアでは、同じ日の中でも気温が目まぐるしく変化します。まるで、1日で春夏秋冬全てを体験しているかのように変化します（実際、朝と夜の気温は1桁台ということも多々ありました）。ですので、2月出発のプログラムに参加しようと思っている方は、日焼け対策はもちろんのこと寒さ対策もある程度して行ってください。

TJFL プログラムの良いところは、留学生ではなく先生のアシスタントとして現地に行くため、先生たちと深く関わるができることです。学校行事はもちろんのこと、朝の全体会議や教科毎の会議にも必ず出席しなければなりませんし、生徒からは先生として見られているのを感じました。ですから、大学生でありながらも先生としての一定の責任感を持って生徒に接するように気をつけていました。色々大変そうだと思うかもしれませんが、やりがいがあります。このような体験はどこでもできるというわけではないので、興味がある方はぜひ参加してみてください。



Ballarat Wildlife Park



Sea Life（メルボルン水族館）



A. S 英語英文学科 2 年次

参加期間：2019 年 2 月 15 日 ～ 3 月 17 日（4 週間）

受 入 校：Geelong High School（Geelong）

I. 教育実習について

私の実習校では、7 年生から 12 年生までの生徒が在籍しており、全学年の生徒の日本語の授業にアシスタントとして参加しました。7 年生は日本語の授業が必須で、8 年生はドイツ語か日本語のどちらかを学ぶことが必須だったため、この 2 学年の授業は生徒数も 20 人前後と多かったです。9 から 12 年生は日本語が選択科目だったため、ほとんどの授業が 10 人前後の生徒数でした。日本語の先生は、3 人いらっしゃり、どの先生も日本に留学経験があり日本語だけでなく日本の食べ物や季節ごとの行事、礼儀作法などの日本の文化についても詳しく知っておられました。そのため、授業でも言語として日本語を学ぶだけでなく、日本の文化も一緒に学べるような工夫がされており、生徒が楽しく日本語を学んでいる姿が印象的でした。



7 年生や 8 年生は、「はじめまして。」や「私はオーストラリア人です。」などの挨拶や数字などを習っていて、挨拶の授業では、日本の名刺交換のマナーや、お辞儀の仕方などを学んでいた所が印象的でした。9 年生、10 年生は「午前 8 時に学校に行きます。」などの日常のスケジュールに関することや、道案内について学習しており、ゲーム形式で単語を覚えるなど、楽しんで学ぶ工夫をされていました。11 年生、12 年生は日本語を聞き取ったり、話せたりする生徒が多く会話のテストの練習を一緒にしたり、作文の添削をしたりと、生徒と 1 対 1 で関わる授業がほとんどでした。そのため、生徒 1 人 1 人の日本語力に合わせて教えることを心がけていました。

ちょうど私が滞在していた時期が、ひな祭りの時期だったため、ひな祭りについてプレゼンテーションをしたり、折り紙を教えたりといった機会を設けて下さり、生徒の前で日本の文化について授業をしたことが一番印象に残っています。最初は、しっかりと自分の伝えたいことが伝わるか、生徒が興味を持ってくれるかなど、不安や心配もありましたが、どの生徒も興味を持って話を聞いてくれたり、たくさん質問をしてくれたりして本当に楽しんで教えることができました。授業中だけでなく、休み時間にも日本語や日本の文化について、もっと知りたいと多くの生徒が話しかけてくれ、多くの生徒が日本語について関心を持っていることが嬉しく、もっと日本語を学ぶことは楽しいと思ってもらえるように、自分からも積極的に話しかけることを心がけていました。

日本語の担当でない先生方もたくさん話しかけて下さり、気にかけてくださったので、本当に

Teaching Japanese as a Foreign Language



多くの先生方の優しさを感じました。また、日本語の先生方は授業中に、私が少しでも生徒と関わる機会が増えるように、考えてくださったり、私のプレゼンテーションのサポートをしてくださったりと、大変お世話になりました。



Ⅱ. ホストファミリーについて

私のホストファミリーは、実習校先の生徒の家族でした。7人兄弟の家族で、一番上のホストシスターは私と同年で、実習校先に通っていたホストブラザー2人と、中学生、小学生2人のホストシスターと、プレップスクール生のホストブラザーという賑やかな家族でした。家族のみんな、スポーツが大好きで、クリケット、サッカー、バスケットボールなど多くのスポーツをしていて、週末には試合を見に行ったり、一緒にスポーツを楽しんだりしました。

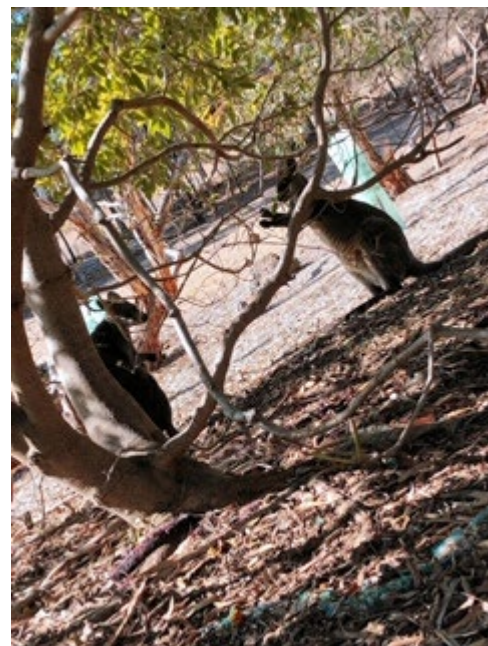
家の近くに、大きなスタジアムがあったため放課後にもオーストラリアンフットボールや、サッカーの試合を見に行くことができました。特に、本田圭佑選手が所属するメルボルン・ビクトリーというサッカーチームの試合を見に行き、ホストファミリーと共に応援したことはとても印



象に残っています。また、メルボルンの市内に観光に行ったり、動物園に行ったりと、様々な場所に連れて行っていただきました。

大家族で忙しい中、とても温かく迎えてくださり、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。また、私はオーストラリア滞在中に誕生日を迎えたので、ホストファミリーが誕生日をお祝いして下さい、思い出に残る誕生日になりました。末っ子の5歳のホストブラザーとは、ほぼ毎日一緒にサッカーをしたり、カードゲームや折り紙をしたりして遊んでいました。日本から持っていった折り紙に興味津々だったので、持って行って良かったと思いました。最初は、緊張していて中々自分から話しかけられずにいましたが、時間が経つにつれ、たくさん会話を楽しむことができました。

ホストファミリー全員がすごく優しく、実習先のことや日本のことなど多くの質問をしてくださいました。また、親戚の家にも連れて行っていただきホストマザーや、ファザーの両親、兄弟の方たちにも私を紹介して下さい、皆さんが温かく迎えてくださったのがすごく嬉しかったです。ホストファミリーには本当に、言葉では言い表せないくらいの感謝の気持ちでいっぱいです。



Ⅲ. 参加希望者へのアドバイス

参加する前は、不安や緊張などがありましたが、ホストファミリー、実習先の生徒たち、先生方など、たくさんの方が本当に優しく、楽しく充実した毎日を過ごすことができ、あっという間の4週間でした。また、自分の伝えたいことを全て英語で伝えることができない悔しさも感じました。次に来るときはもっと英語が話せるようになりたいと思い、英語学習のモチベーションが上がりました。

オーストラリアに行く前までは、完璧な英語を話せないといけなくて、文法など間違っていたらどうしようと英語を話すことに少し抵抗があり、自分の英語力に自信を持てずにいました。しかし、実際に会話をすると、相手は私の英語力を理解してくれているので、聞き取れなかった部分



は何度も話してくれたり、私の話したことを真剣に聞いてくれたりしたので、会話を楽しむことができました。英語を完璧な文法で話すことや、瞬時に聞き取れることも大事ですが、自分から積極的に話しかけることが何よりも大事だと気づくことができ、今まで英語を話すということに対して持っていた抵抗感をなくせ、少し人見知りだった性格も変えることができました。ぜひ自分から積極的に話しかけ、充実した日々を過ごしてください。